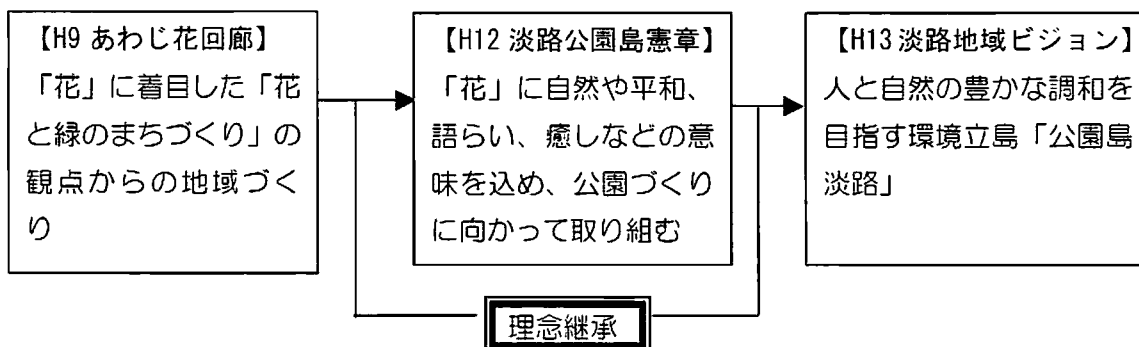


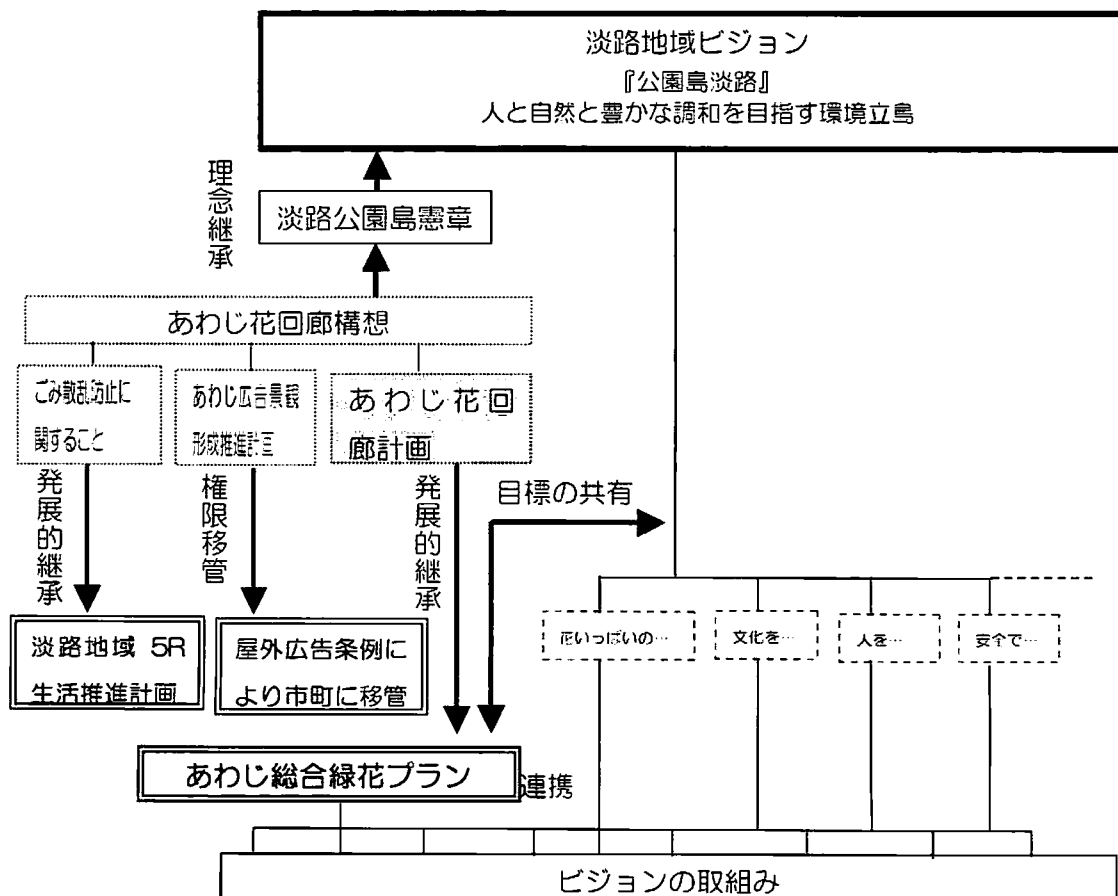
参考資料

参考 1 あわじ花回廊構想について

○ あわじ花回廊構想の目標は「世界に開かれた公園島の創造」であり、その「花」に着目した「花と緑のまちづくり」の観点からの地域づくりという理念は、阪神大震災からの復興や花博の開催を契機として、「花」に自然や平和、語らい、癒しなどの意味を込め、公園づくりに向かって取り組むべき内容を表した「淡路公園島憲章」、さらに淡路公園島憲章の理念は淡路地域ビジョンへと継承され、地域行政推進プログラムの中で花回廊構想の理念を活かした実践活動を行っている。



○ あわじ花回廊構想に基づく3つの計画は、それぞれ発展継承または権限委譲されており、その取組みはそれぞれの主体が独立して推進している。



参考2 あわじ花回廊ルート

あわじ花回廊計画（平成7年～16年）では、基幹ルートと補完ルートからなる花拠点施設を結ぶルートを決めていました。

その後、あわじ総合緑花プランに先立って、平成16年度に策定された「花と緑あふれる美しい県土づくりアクションプログラム」のなかで、車の走行が不可能な箇所を削除など、既設定ルートの一部見直しを実施しました。

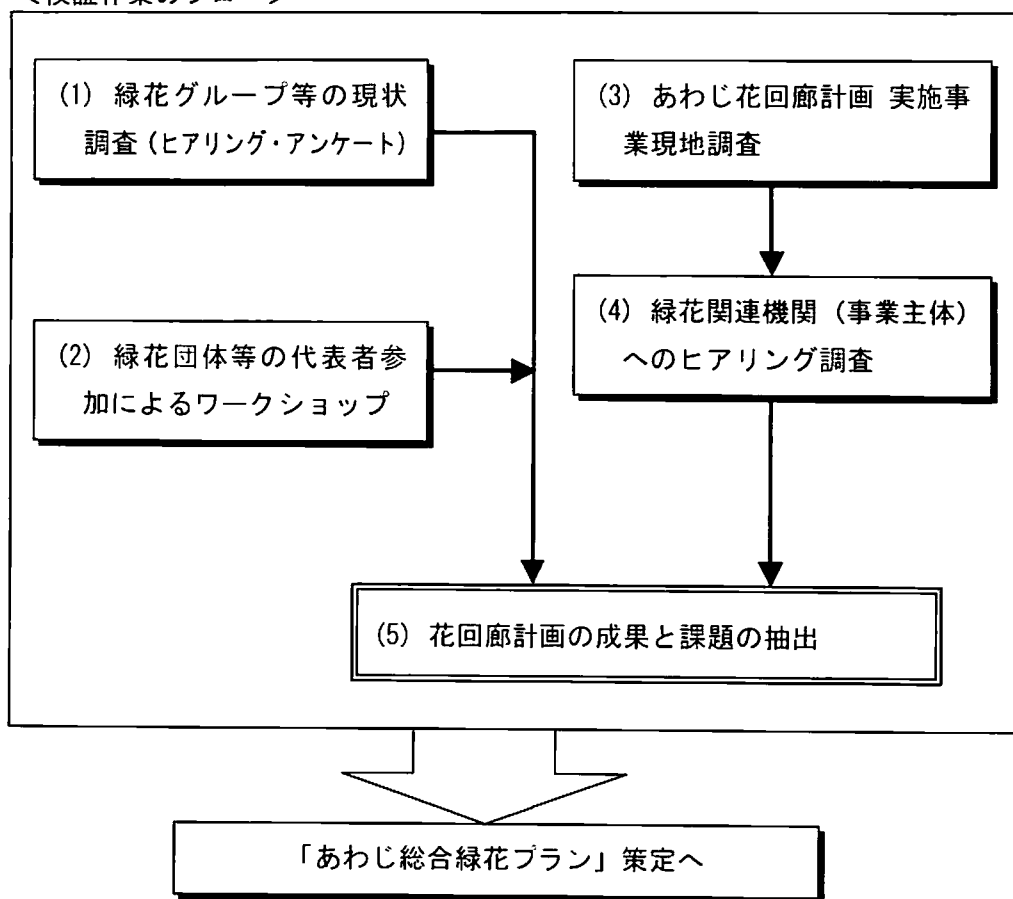
このことから、あわじ総合緑花プランでは、「花と緑あふれる美しい県土づくりアクションプログラム」のルートと整合を図り、花回廊ルートを定めます。



参考3 あわじ花回廊計画の検証作業とその結果

プラン策定にあたり、あわじ花回廊計画に位置づけられた事業実施状況の把握のための現地調査と事業実施主体となっている緑花関連機関へのヒアリング調査を実施し、併せて地域で中核を担っている緑花団体等へのヒアリング調査、および緑花団体等の代表者の参加によるワークショップを開催した。これらのことから、あわじ花回廊計画の取り組み成果と課題を抽出した。

＜検証作業のフロー＞



(1) 緑花グループ等の現状調査

緑花グループ等の現状調査として、ヒアリングを行った。また、既存のアンケート調査などの報告書を引用し、調査した。

<ヒアリング調査>

1 ヒアリングの目的

淡路では、約700のグループが緑花に携わっている。それらのグループは、個々に活動しているが、およそ市町単位で中核的な役割を担う団体があり、その団体を核にしてネットワーク的な活動を行っている例が見られる。そのような中核を担う団体をヒアリングすることにより、今後、淡路でどのような緑花推進体制を作っていくかヒントを得ることを目的とした。

2 ヒアリング先

■緑花団体（名称はヒアリング当時のもの）

ヒアリング先	備考
○北淡町花づくり友の会（旧北淡町） ○淡路町公民館（旧淡路町） ○東浦町花でまちづくり協会（旧東浦町） ○一宮町花と緑の協会（旧一宮町）	・行政合併により、淡路市になる
○緑花づくりを楽しむ会（旧緑町） ○花づくりネットワーク西淡（旧西淡町） ○花づくり同好会（旧三原町） ○南淡町花づくり交流会（旧南淡町）	・行政合併により、南あわじ市になる ・一同に介してヒアリング

■行政（名称はヒアリング当時のもの）

ヒアリング先	備考
○北淡町企画振興課 ○五色町生活環境課 ○洲本市企画課 ○津名町企画開発課	・中間支援的な組織。 ・一同に会してヒアリングした。

■先進事例

ヒアリング先	備考
○メリーポピンズの会 （宝塚市民園芸ネット）	・宝塚市で活動されている団体。花壇をネットワークして組織的な活動を行っている。

3 結果概要

① 緑花団体の現状

○ 緑花団体が行っている事業内容

- ・市町や県からの助成金や花苗を一括で受けて、各グループへ配分する
- ・研修旅行、講習会の企画、花苗づくりと配布、場所の調整（所有者との仲介役）
- ・案内郵送、会議室の準備、助成申請書類の作成、会計、総会資料の作成などの事務作業は、市町が行っているケースが多い。一部、公民館などの囑託職員が行っている例もある。
- ・総会、役員会を持っている。役員は、いくつか（地域・地区等）に分かれた活動グループの長であることが多い（いわゆるリーダー会議）。しかし、全く違った人たちのグループが緑花団体の役割を担っている例もある。

○ 発足の経緯

以下の3つのパターンが見られる。

- ・活動グループから、花苗の確保や助成金の受け皿としてのとりまとめ役など、ネットワーク組織の設立の要望を受けて立ち上がった。
- ・行政から数あるグループをとりまとめてほしいと呼びかけられて立ち上がった。
- ・公民館活動などでもともとコミュニティの中核的な存在であったところに緑花活動を加えた。

○ 組織のタイプ

以下の2つのパターンが見られる。

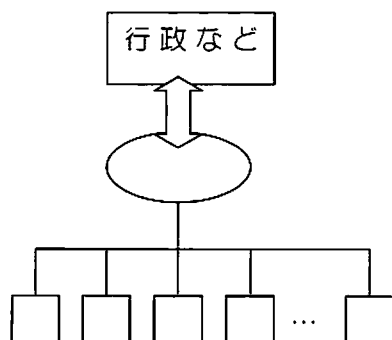
・ ツリー型

組織の長がおり、役員会が設置され、情報の伝わり方も順番に上から流れてくる形。登録されているグループとあわせて、いわゆる一つの大きな「組織体」である。

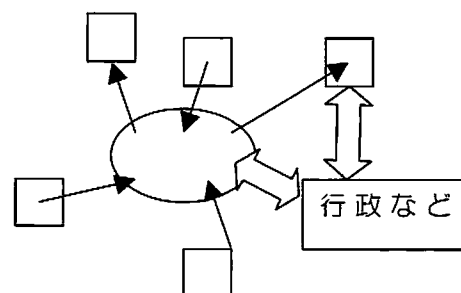
・ アメーバ型

ある組織、団体、場所（公民館など）をキーにしてアメーバ式に活動が広がっている形。いろんな組織がネットワークされている状態（一つの組織ではないが情報や人・資源などによりつながっている）。

<ツリー型>



<アメーバ型>



② 緑花団体が抱えている今後の課題

- ・市町単位での組織であったため、行政合併により今後どうなるか。
- ・事務的な作業など、市町が一部になってきた部分を自立して行うことが可能かどうか。また、行政との協働をどう築きあげていくか。

③ その他ヒアリングで得られた現状や課題等

○地域活動での現状

- ・まちがきれいになればいいなと思い実施している、「花づくり」や「まちの美化」が、結果として地域の景観づくりやコミュニティ形成、青少年の育成など「まちづくり」へと自然に結びついている。

○地域活動での課題

- ・地域（市町単位）の活動は、とりあえず自立継続が最重要課題。そのために「花苗・土」「活動費」「水やり」「人材不足」「情報発信」「事務的作業」をどうするかが課題となっている。

○全島レベルでの動き

- ・オープンガーデンや、菜の花サミットなどの全島的取組が行われている。オープンガーデンは、団体が実行委員会形式で行っている。
- ・バーベナあわじなど地域ごとに支部がある組織もある。
- ・NPOあわじ緑花協会と講習会などで連携して実施している。

<緑花グループへのアンケート>

プラン策定に先立ち、「花づくりマップ・アンケート調査」を行ったため、その結果を引用した。

1 アンケートの目的

緑花グループの現状と課題を把握する。

2 アンケートの概要

○ 実施日

・平成 16 年8月

○ 対象者

・淡路島内緑花グループ 73 団体を対象、うち 50 団体が回答

○ 主な設問

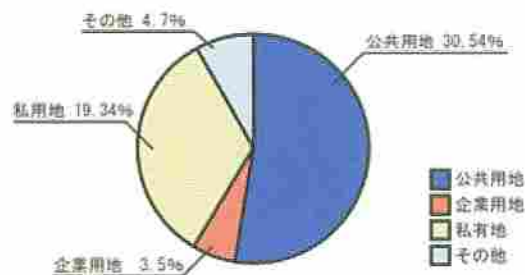
- ・活動の目的、規模、年数、専門技術の有無、資金の調達方法
- ・活動場所の条件（土地所有の状況、花づくり施設の内容、管理施設の有無等）
- ・花(植物材料)の構成内容、花苗、種子等の調達方法、管理状況
- ・今後の要望 等

3 アンケートの結果概要

① 活動団体の現状

・活動場所は、公共用地が多く、街路沿いや港の花壇など路地花壇が多くなっている。

■ どのような場所で活動しているか

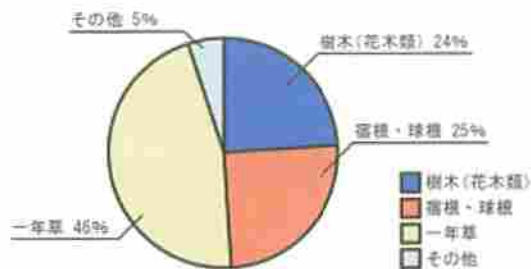


- ・活動の目的については、住んでいる人にとってきれいなまちにしたいからという地域美化を基本に、花や土いじりが好きだから、人と交流する機会になるから、淡路島を訪れる人にきれいに思ってもらいたいから、自然を守りたいから、子どもの環境学習に取り組みたいから、地域の資源を活かしたいからなど、多岐に及んでいる。
- ・活動内容については、花壇での植栽活動に加えて、幼稚園や小中学校と連携した活動、堆肥づくり、淡路瓦など地域の資源を活用した活動を展開しているグループも

ある。

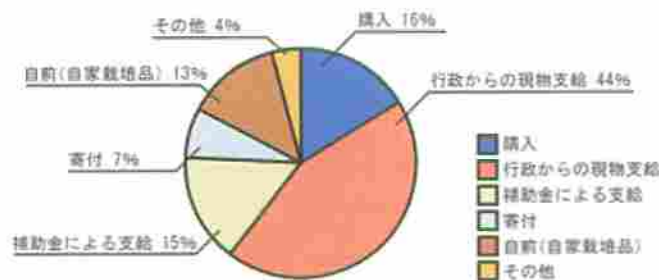
- ・グループの活動がつながり、オープンガーデンなど全島での取り組みへと発展している。
- ・植栽管理についてはとくに水の調達について労力を費やしている。家庭の水道や井戸水を使用したり、農業用水を借りているなど様々に工夫をこらしている。
- ・緑花資材については、1年草が46%を占めており、環境や資源の循環といった観点からは課題が残る。

■花（植物材料）の構成は？



- ・花苗等については、行政からの現物支給が中心となっており、自家栽培を行っているグループは13.4%となっている。
- ・活動資金については、行政からの補助が58.6%と半数を超えており、行政の補助が活動資金の中心となっているグループが多くなっている。
- ・中間支援型の組織が各市町単位で存在し、各グループで苗づくりや講習会など活動の中核を担っている。花苗の一括生産と安価な販売を行い、地域のグループの支援を行っている。

■花苗等の入手方法は？



② 緑花グループが抱える課題・問題点

- ・高齢化や会員の減少による担い手不足などで、活動を継続させることが困難になってきているグループが生じつつある。リーダーなど一部の人材への負担が集中し、継続が困難になっているグループもある。
- ・維持管理の面で、淡路は雨の少ないため水やりが困難であったり、人材不足、緑花資材の確保のための資金確保の問題がある。行政からの苗や緑花資材の補助、助成がなければ活動が続かないという声も聞かれる。
- ・活動する場所や道具置き場が欲しいとの声もある。
- ・地域で中核を担っている緑花団体では、行政合併により組織のあり方も変化し、今後は自立と事務局機能の確立が求められる。



子どもたちと一緒に花壇づくり活動



休耕田を活用して花植え活動（淡路市竹谷地区）



大変な水やり作業



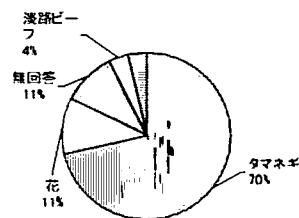
淡路瓦を利用して工夫された花壇

<参考>淡路創造大学でのイメージ調査より（回答数 28 名）

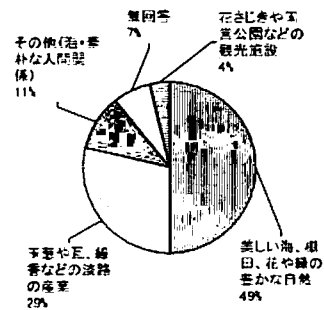
Q「淡路＝花いっぱいのイメージが定着したか？」

- ・淡路といえば第一に「タマネギ」であり、「花」と答えた人はわずかでした。また、花いっぱいのイメージが定着したか？という問いには約半数が「まだ定着していない」と回答しています。必ずしも淡路＝花いっぱいのイメージが定着しているとは思っていない人も多いようです。
- ・淡路らしさのイメージとしては、「花さじきや国営公園などの観光施設」「ゴルフ場や保養所などのリゾート施設」よりも「美しい海、棚田、花や緑の豊かな自然」「玉葱や瓦、線香などの淡路の産業」があがっています。さらに、淡路の花や緑と言えは、「豊かな里山林」「ウバメガシ林などの海岸林」「街角の花壇」「花さじき」など多岐に及んでおり、花の拠点施設や道路緑花だけが淡路の花や緑ととらえていないことが分かりました。
- ・さらに、淡路に望ましい緑花は？という問いに対しては、「郷土種で淡路らしさを演出する」「菜の花・コスモスなどの一斉緑花」があげられ、「四季折々の花で彩る」「淡路に自生する植物の保全」などもあげられています。つまり、淡路の緑花の今後については淡路らしさを演出することがベースにありながら、全島での緑花の取り組みや圃芸種による色とりどりの緑花も必要ととらえられていることが分かります。

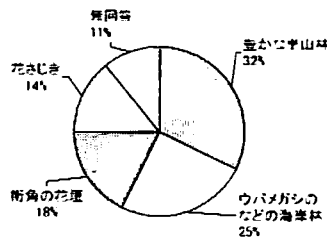
■淡路と言えば？



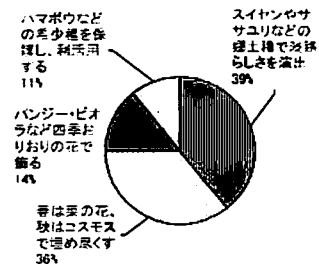
■淡路らしさのイメージ



■淡路の花・緑と言えば？



■淡路に望ましい緑花は？



(2) 緑花グループ代表者参加によるワークショップ

1 ワークショップ開催の目的

淡路で活動している緑花グループの中でも中間支援的役割を果たしている緑花団体等の代表者や関係行政機関等の関係者を集め、現状活動の問題点把握や総合緑花プラン策定に向けて、緑花活動の実践的提案を得ることを目的とした。

2 ワークショップ開催概要

緑花団体等の代表者によるワークショップは3回開催され、次のようなテーマにもとづきワークショップを開催した

<各回の主な議題>

回	主 な 議 題	出席者数
第 1 回 (平成 17 年 6 月 13 日)	○緑花プランの策定状況 ○出席者の自己紹介 ○フリーディスカッション ・自分達がしていきたいこと、できること ・その際の課題 ・プランに書き込みたいこと、解決策	30 名
第 2 回 (平成 17 年 6 月 28 日)	○前回の振り返り ○今後 10 年間の淡路の花や緑の取り組み ・緑花活動をしている理由 ・淡路の風景歴史の紹介(淡路らしい風景の再発見) ・今後 10 年の淡路の緑花活動の夢、取り組み	27 名
第 3 回 (平成 17 年 8 月 9 日)	○前回の振り返り ○今後 10 年間の淡路の花や緑の取り組み ・各出席団体等から提出された実践的提案の発表 ・まとめ	25 名

3 ワークショップの結果概要

ワークショップでは、歴史や現在の風景写真を見ながら淡路らしい風景の再発見を行い、なぜ淡路で緑花活動を行うのかを探るとともに、今後 10 年の淡路の緑花のための実践的提案を行った。

<今後 10 年の淡路の緑花のための実践的提案>

こんな風にするべき・変えるべき こんなことに取り組んでみたい	具体的な進め方	
	実現するためのアイデア	取り組む主体
<p>○「淡路の花」の定着 ・春は菜の花、秋はコスモス、冬はスイセン</p> <p>○淡路のシンボルフラワーの選定と定着 ・例えば「淡路といえば○○」</p> <p>○淡路の花のイメージづくり ・北、南淡路で違う種類の植物を植える</p>	<p>・推進体制の整備 ・緑花意識の向上 ・花と緑の日にポット苗の配布</p> <p>・淡路島の気候に適した“花(シンボルフラワー)”を一斉に植栽 ・「淡路○○まつり」を開催する</p>	<p>行政・緑花グループ</p> <p>行政・緑花グループ</p> <p>行政・緑花グループ</p>
<p>○ダム周辺などに桜を植えて修景する ・寺社の馬場、ダムの周辺に先人の植えた桜の花の美しさは見事 ・日本の国は桜が一番。淡路もいたる所に植えたい花は桜の木</p> <p>○幹線道路河川沿道を重点的に緑花 ・地域によって特徴ある花木を揃える。例えばアジサイ河川道とか桜並木など</p> <p>○あわじオープンガーデンで島内の緑花活動を盛り上げる ・全島花と緑のまちづくりにたずさわるすべての人が自分達の「あわじオープンガーデン」と位置づけ、協力体制をつくりたい。緑花グループの人達にとっても発表会的な場になればよい</p> <p>○畦畔のり面への景観植物の植栽と立体的な景観形成 ・全島的に棚田が多く。雑草管理に苦勞している。草刈りが省力できる草丈の低い、花の美しいグランドカバーを植栽することにより、農家の省力化を図る</p> <p>○生活の中での花文化の醸成 ・春祭りのだんじり唄の競演、桜花の下の野点、舞い散る花の風情はたとえようのない美しさがある</p>	<p>・地域の緑花グループが中心となって、それぞれの地域をチェック。緑花場所をピックアップ。皆で討議、決めて実現させる</p> <p>・緑花グループリーダーが島内各地から実行委員として参加。各グループの地域のオープンガーデンに対する思いを企画提案する ・技術向上のための研修会等を実施する</p> <p>・雑草化させないため種子の出来ない宿根草を利用 ・花が美しく、できれば花期の長いものいがあればよい</p>	<p>行政・緑花グループ</p> <p>行政・緑花グループ</p> <p>緑花グループなど</p> <p>緑花グループ・行政</p> <p>緑花グループ</p>
<p>淡路の施設有効活用と観光促進</p>		

<p>○施設の有効活用と観光促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北淡路：花さじき、景観園芸学校、明石海峡公園、パルシエ ・南淡路：ファームパーク、灘の水仙。自然に恵まれた鳴門海峡、国立公園慶野松原等の施設や景観を情報発信すべき 	<ul style="list-style-type: none"> ・緑花グループと地場産業の瓦関係の方々との交流 ・慶野松原の松並木、砂浜、西浦海岸特有サンセットのすばらしさをアピールする 	<p>緑花グループなど</p>
花壇づくりの工夫		
<p>○変化のある花壇づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低木、宿根草、一年草を交えて植えることにより色彩感覚、緑花等に変化をつける(費用削減にも) 		<p>緑花グループなど</p>
<p>○年中緑がある工夫を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・路肩の上の流出を防ぐためガザニアの花を植えている。年間を通じて花のない時でも枯れることなく緑があり花も美しい宿根草で有り花も増しやすい。 		<p>緑花グループなど</p>
<p>○種子から育苗を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温室保存した種子から育苗にも取り組みたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・管理しやすい場所の選定が難しい ・育苗しやすい限られた種類だけでは限界がある。技術のある指導者の人も時に応じて必要 	<p>緑花グループ、行政支援</p>
<p>○淡路に適した宿根草、低花木類の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植え替えの省力化と苗代の節約のため淡路の気候風土に適した宿根草、低花木を導入 	<ul style="list-style-type: none"> ・淡路に適した宿根草、低花木一覧表の作成(草丈、花期、繁殖法、その他の性状等) ・景観園芸学校等に宿根草、低花木を配したモデル花壇の設置 	<p>行政</p>
<p>○灌水設備の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・灌水設備の無い花壇は管理の継続が困難なので是非設置すべきである 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体、行政等での設置を望む 	<p>行政</p>
<p>○四季咲き花木園の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沿道花壇は四季咲き花木に変えれば、植え替えの手間や、それに伴う経費が削減される。四季折々に咲く花で癒される 	<ul style="list-style-type: none"> ・最初の基盤整備には出費がかかるが、後々出費は少なくなるので、行政に依頼したい ・あまり手間がかからないので、高齢化、人不足が進んでも管理ができると思う 	<p>緑花グループ・行政</p>
<p>○公共花壇の市民グループへの管理委託</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政が維持管理している花壇を一部でも管理委託してほしい。緑花グループは花苗を自ら育苗するなどの工夫により、委託費用の中で自らの活動費を捻出することが可能となる。 		<p>行政・緑花グループ</p>
緑花資材の確保		
<p>○種から育てるための(花苗以外の)緑花資材の支給</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政から支給される資材は主に花苗に限られている 	<ul style="list-style-type: none"> ・種から育てる花づくりを推進するのであれば、育苗作業に必要な資材を助成する「種から育てる花づくり事業」のような補助メニューを設けてほしい 	<p>行政</p>

<p>○花苗等を広域で融通するしくみづくり ・ホームページ等による花苗等の情報交換</p>	<p>・グループで育成していて余った苗、また購入したいものがある場合、時期を定め交換会もよい。行政のホームページの中に紹介欄をつくってはどうか</p>	<p>行政・推進会議</p>
<p>国体に向けた淡路の緑花</p>		
<p>○国体に向けた緑花 ・主要道路沿線の公共空地、休耕地、高速バスターミナル及びインターチェンジ周辺、国体開催会場周辺等を花で飾ると共にゴミの無い美しい淡路島を創造する・国体終了後においても美しい状態を保持する</p>	<p>・のじぎく国体に向けて現在の人員、体制では期待に添えるだけの活動ができるか疑問 ・緑花グループと行政及び各種団体(町内会、老人会、婦人会)との連携が不可欠。各種団体に参加を呼びかけると共に市広報等でボランティアを募集する・国体終了後も美しい状態を保持するため、新しく発足したボランティアに引き続き花づくり等の美化活動をお願いする</p>	<p>行政・緑花グループ</p>
<p>自然を保全・育成する緑花活動</p>		
<p>○里山植物の復元と保護 ・全島至る所の里山にササユリ・鑑賞価値のある植物が多く見られたが現在ほとんど見られなくなった。中長期的に計画し、環境を整えて復元すべき</p>	<p>・地区を決めて整備復元 ・ササユリなどの大量増殖(茎頂培養) ・ボランティア(都市住民を含む)組織への呼びかけ</p>	<p>行政</p>
<p>○造成法面の自然再生と憩いの場づくり ・神戸淡路鳴門自動車道の整備に伴い、造成斜面が連続する形状で残っている。これら開発のつめ跡に花木を植栽することにより、お年寄りなどが集える美しい憩いの場所をしたい</p>	<p>・旧東浦町の区域では、国道28号から法面がよく見えて、かつ緑花グループで植栽可能な適地がある。行政に桜の苗木を提供してもらってボランティアで植樹し、花見のできる場所にする。また春には桜、秋にはコスモスが楽しめるように播種する</p>	<p>緑花グループ・行政</p>
<p>○淡路に自生していた植物の植物園・公園づくり</p>	<p>・観光スポットになるようにしてはどうか</p>	
<p>子どもや高齢者の緑花活動</p>		
<p>○小学校と一緒に花いっぱい運動 ・小学校区ごとのグループを育成して花いっぱい運動を展開したい</p>	<p>・「出会いを大切に」をモットーに、ボランティア活動で知り合った人たちで出来る範囲の花づくりを計画する</p>	<p>緑花グループ・行政</p>
<p>○子供の情操感を育てる ・自分達(子供)が住んでいる町や地域を自分達で美しくして愛着が持てるようにすると共に子供達の情操感を育てる</p>	<p>・地域内の小学校に呼びかけ、緑花グループと合同で花植えを実施する</p>	<p>緑花グループ・行政</p>
<p>○子どもの情操教育、高齢者の生きがいづくり ・花づくりの技術、情報の提供をしていきたい</p>	<p>・淡路の公園化を実現するには、第一に拠点づくりとサブ拠点づくり、四季を通したオープンガーデンにある ・先ず意思統一のため“春は菜の花 秋はコスモス”の実現をめざす</p>	<p>緑花グループなど</p>
<p>楽しみながら行う緑花活動</p>		

<ul style="list-style-type: none"> ○楽しめる場づくり ・グループは地域で楽しみながら花づくり人づくりを推進する 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政主導から楽しく交流して花づくり推進会を発足させた 	<ul style="list-style-type: none"> 緑花グループ
<ul style="list-style-type: none"> ○花を愛でながら、楽しみながら緑花活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・花が大好きで暇が作れる人、グループが仲がよく趣味の合うこと、家が近くで環境も似ていること、家族に理解のあること、年齢も余り差のないこと、花にやる水が無料であり無理な出費をしないこと、長続きは無理をかけないこと 	<ul style="list-style-type: none"> 緑花グループ
<ul style="list-style-type: none"> ○無理はしない 	<ul style="list-style-type: none"> ・無理をすれば不平が出る。地区毎の小さなグループで苦にならない楽しむ花づくりがよい 	<ul style="list-style-type: none"> 緑花グループ
<ul style="list-style-type: none"> ○会話をしながら緑花活動 ・花植えだけでは人は集まらない。日頃の交流や雑草が目につけば相手の仕事の状態をみて声をかけ参加をしてもらう 		<ul style="list-style-type: none"> 緑花グループ
緑花運動と健康		
<ul style="list-style-type: none"> ○花も実も楽しむ健康づくり園 	<ul style="list-style-type: none"> ・休耕田を利用する 	<ul style="list-style-type: none"> 行政・緑花グループ
<ul style="list-style-type: none"> ・目の健康にブルーベリーその他葉草など、花だけでなく健康に繋がる花壇公園 ・薬膳料理、葉草風呂、その他売店、健康研修館等を設置して淡路の観光スポットになるようにしてはどうか。 		
しくみづくり等		
<ul style="list-style-type: none"> ○情報交換の場の創設 ・年に数回、花苗の交換、栽培技術の向上、先進地の視察など、情報交換を行い、お互いに助け合う。全島的に年に1・2回交流の場を作る 		<ul style="list-style-type: none"> 初動期：行政、以後：緑花グループ
<ul style="list-style-type: none"> ○情報交換のしくみづくり ・ホームページ等による花苗等の情報交換 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで育成していて余った苗、また購入したいものがある場合、時期を定め交換会も良いが、行政のホームページの中に紹介欄をつくってはどうか 	<ul style="list-style-type: none"> 行政
<ul style="list-style-type: none"> ○他団体と調整しながら花づくり ・行政・グループの植栽時期の調整が必要 ・月別カレンダーの作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・先ず行政担当者(市町)の意識改革 ・地域を緑花推進するための企画、推進する意欲の育成(県の指導) 	<ul style="list-style-type: none"> 行政・推進会議
<ul style="list-style-type: none"> ○グループで予算の使い方を決める ・行政の補助対象は花苗等の現物支給等に限定されている。緑花グループのメンバーが作業をした後のジュース一杯の費用ぐらいは行政に支援してほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・裁量性のある補助制度(活動支援)の創設(花苗以外の支給) 	<ul style="list-style-type: none"> 行政

<ul style="list-style-type: none"> ○若者も活動に参加する ・会員の数も本年は250名余(今後増える)会員全体の高齢化に対し若年層に働きかけることが課題である ・新市になり、助成金も減っている。若者のボランティア参加も徐々に増えてきている 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後より多くの場所に拡大していきたいが、提供する花苗代の負担が大きい ・各地域の花苗をより広域に提供できないか 	行政・緑花グループ
<ul style="list-style-type: none"> ○活動グループの連携体制(各市ごとの協会等)づくり ・各地域の現状と、どのように連携することが出来るか現状を活かしつつ実現する努力が大切 ・島内三市になることを含め、各市毎に協会組織が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・若い層のボランティア参加などでの中高生の活動と連携をしてはどうか 	行政・緑花グループ
<ul style="list-style-type: none"> ○花づくりリーダー交流会の開催 ・現在ワークショップ参加の緑花グループリーダーの方との交流が必要(まちガーデナー体験コースの受講を通して)一つのことを一緒にやるとか 	<ul style="list-style-type: none"> ・県立景観園芸学校の活用 ・「まちづくりガーデナー体験コース」に参加(出前コース)を呼びかける ・国体に向けてワークショップでデザインから植栽まで実施を検討する 	花づくり団体・行政

淡路らしい風景と緑花活動の原点

淡路らしさ（淡路らしい景色・風景とは？）

1 四方を海に囲まれた明確な海峡と「島」という立地

- ・1日でまわれる大きさの島（淡路巡礼）
- ・海産物などの恵みの享受、豊野松原など砂浜と人との密接な関係
- ・朝廷が直接の支配下において豊かな海・山の草、塩、獣肉、湧水など食料貢献の地とした
- ・国生み神話：イザナギ・イザナミの2神ゆかりの伊弉諾神宮とおのころ島神社
- ・島として外からの人を「お迎えする」という心が育まれている



里山（マツ林）の利用



海に面した急峻斜面とウバメガシ林



海浜を利用する人行

2 平地の少ない急峻な地形とそこに成立する多様な植生

- ・淡路の中でも多様な気候がある（東側・西側で異なる）→多様な植生に
- ・海浜にはマツ林、断崖にはウバメガシの風景
- ・棚田、山など地形が複雑、また傾斜地が多い
- ・里山としては昔はマツ林が多く、薪炭材利用以外に松茸などの恵みを得てきた。



「ため池」と水辺の植物の発達



ダムはレクリエーション利用にも



複雑な地形を映す棚田

3 温暖な気候と貴重な水

- ・雨が少ないことから、2万以上のため池が造営
- ・ダムなどの人工物の設置、その周辺を桜などで飾り、お花見利用していた
- ・国道沿いのマツの並木（雨の少なさを連想させる）
- ・史跡を地域で管理している→地域の祭祀空間。ほこら、ご神木を守る風習
- ・貴重な水を皆で大切に使うための井戸の管理（六角形の井戸）ときれいにする習慣



ピガンバナの花がほる田圃



水辺草



出島瓦

4 都市近郊にあることから、近郊農業の発展

- ・タマネギ畑、酪農（淡路牛）の発展
- ・果樹栽培（みかん、オレンジ、ピワなど）の発展
- ・花卉産業の発展：露地栽培、カーネーションや電照菊などの大規模な温室団地（釜口地区）
- ・淡路瓦は飛鳥時代にまで遡る。いぶし瓦は生産日本一

5 近年は、「公園島」としてリゾートのイメージ

- ・明石大橋ができてより手軽に来ることができる別荘に、ただし宿泊のイメージが薄れる
- ・花博の開催
- ・各種リゾート施設整備とそれに付随した緑花の取り組み
- ・港、高速道路出入口、駅前、主要道路沿いなどを緑花
- ・草の花、コスモス一斉事業
- ・あわじ花さじき



おのころ愛ランド内イングリッシュガーデン



多様な花など施設を飾る花々



阿波はちろうん境内でも名所となっている花さじき

6 淡路＝「花の島」が定着しつつあるが・・・？

- ・「花」は淡路らしさを形づくる一要素になりつつある。住んでいる人も、訪れる人も「花」の風景を期待
- ・しかし、一方で、活動の継続性が困難になりつつある。また、どこもかしこも「花」の状況が良いかどうかは問われつつある。

活動のモチベーション（なぜ淡路で緑花活動をしているのか？）

- 1 花が好き、土いじりが好き
- 2 楽しみたい、幸せになりたい、無理をせずにやりたい。
- 3 みんなが一体になっている感じを味わいたい。会話をしながら緑花活動をしたい。
- 4 花や緑でいっぱいにしてまちを美しく・明るくしたい。
- 5 活動をどんどん広げて淡路全島の盛り上がりをつくりたい（点から線、面、全島へと）
- 6 外から訪れる人を気持ちよく迎え入れたい、心を初めたい
- 7 地域にある良いものをPRしたい、資源を活かしたい
- 8 淡路の自然を活かしたい・守りたい
- 9 緑花活動を通じて地域の人材（守り育てる人）づくりをしていきたい



子どもたちと一緒に花壇づくり活動



みんなで花壇え活動（花壇え活動）



大草草水やり作業



林縁田圃活用して花壇え活動



瀬道瓦を利用して工夫された花壇



まちをきれいに美しくして気持ちよく迎える



みんなで花壇え活動（土ごしらえ・掘削）

<淡路の緑花グループの様子>

多数の団体が育ってきて、技術も高まっている

- 淡路花博を契機に緑花グループがどんどん生まれる
- 街路沿いの花壇、港の周辺、休耕田などで活動を展開
- 幼稚園や小中学校と一緒に活動を展開
- 炭瓦など地域の資源を活用した活動展開
- オープンガーデンなど全島での取り組みも毎年実施
- 緑花団体が各市町単位で存在し、各グループで苗づくりや講習会など中核を担っている



<緑花グループが抱える課題・問題点>

緑花活動先進地としての“セカンドステージ”の「悩み」に突入・・・

- 活動を継続させることが困難になってきている
- ・淡路は水が少ないので、水やりが大変
- ・高齢化や会員の減少による担い手不足
- ・一部のリーダーへ負担が集中してしまっている
- ・資金不足による緑花資材確保の問題、行政からの補助がなければ活動が続かない場合も
- ・活動場所の問題。活動する場所や道具置き場とかが欲しい
- 行政や緑花グループ間の調整、事務局機能が求められている

1 淡路らしさを意識した緑花活動

全国に淡路島＝「花の島」の定着、でも無理しない“等身大の淡路”の発信

- 淡路＝「花」の島。花であふれていることが住民の元気を表す。
 - 一斉の花（春の菜の花、秋のコスモス）＋多様な地域ごとの花の選択
- 淡路の複雑で多様な地形に沿ってメリハリのきいた緑花活動を行う
 - 色とりどりの花はまちなかで、一歩農村の中に入ると、そこにある自然が魅力ある地域づくり（自然は自然、手を入れるところは手を入れる。メリハリを付けていくこと。）
- 自分たちの活動によって、淡路に来た人が「良いな・和むな」と思ってもらえる風景をつくる。
 - どんな風景を外からの人が求めているのか？まずは知らないため。（和み？華やかさ？リゾート？自然？エコ？）→一度外から人と一緒にワークショップをしてみるとよいのでは。

2 「持続可能」な緑花活動

- 緑をうまく使う
 - 緑と花の配分を 中低木：宿根草：一年草＝4：3：3に。
- 地域の人材を発掘・育成する
 - 子どもの頃から地域づくり活動へ参画

3 地域の花緑・地域の資源を活かした緑花活動

- 地域の気候風土に合った花緑を率先して用いる
 - どのような花緑が地域の花緑かピックアップして広報する
- 淡路瓦など地域の資源を活かした花壇づくり
 - 何が淡路らしい資源かピックアップする

4 地域の自然を守ることもつなげる緑花活動

- 淡路に自生する植物を保全する活動にも視点を広げる

5 淡路を愛する・支える「人」をつくる緑花活動

- 個人が無理をせず、楽しみながら、その活動が広がっていくような取組みを行う
- 淡路を、自分の住んでいる地域に関わり愛する人づくり。地域で活躍する人材を発掘、育成
 - 子どもの頃から地域の活動に参加する。

6 個人の取組みを積み重ねて全島の取組みへ

- 自分たちの活動を、淡路全島へ点から線、面へと広げていく。ネットワーク化。
 - 自分たちの活動以外にも目を向けて、他のグループと連携しながら緑花活動
 - PRをする、情報交換をする。ゆるやかなネットワーク、うまくハンドリングする機能の構築（「事務局」的存在）



<取組み>

- 淡路らしい景観づくりと発信
- 人づくり、住みやすい環境づくり
- 自然にも配慮・自然を育成する緑花活動

など

<継続して緑花活動を行っていくための工夫やしくみ>

- 楽しみながらできる緑花活動
- 緑とバランスをとった花壇づくり
- 水などの灌水設備の工夫
- 人材の発掘・育成（特に若者、ボランティア）
- 資金の確保
- 情報や技術、資材の交流
- 全島で盛り上げるイベント・しかけの実施 など

今後 10 年間の「実践的提案」

項目とキーワード	提案の内容	行政の役割	短期～中期	重要なポイント
<p>1 淡路らしい場づくり</p> <p><キーワード> 場、設備、土地、人手、資金、技術、美化、自然を守る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○維持管理への助成 ○設備・地盤整備を行政で ○高速道路の造成跡などへの緑花 ○灌水を少なくする工夫（継続的な取組へ） ○畦畔や法面への景観植物の植栽 ○淡路に適した宿根草、低木類（県立淡路景観園芸学校の指導等） ○里山植物の復元・保護 ○地域産物を花づくりに活かす（瓦など） 	<ul style="list-style-type: none"> ○支援のための資金不足（苗支給から種の支給へ） 	<ul style="list-style-type: none"> ○レベルアップ事業など ○助成システムの活用（短期） 	<ul style="list-style-type: none"> ○組織を維持するためにマネジメント ○都市と自然の線の差を考える ○自然の緑とまちの緑、うまく守り、メリハリをつける ○淡路に自生する植物園
<p>2 豊かな地域コミュニティの育成</p> <p><キーワード> グループ、組織、楽しみ 島としての発信、気持ちよく迎える、資源を活かす、幸せになりたい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○施設の有効活用、観光促進（南あわじ、自然を売りに） ○シンボルフラワーを植えてイベント ○まちなかに花いっぱい運動 ○地域の協力で「地域花壇」づくり（協会の努力で推進） ○福祉分野との活動連携 ○健康につながる花づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ○事務局機能の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○花づくりからまちづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ○まちを考えながら花緑を入れる
<p>3 仕組み作り、教育、人づくり、啓発</p> <p><キーワード> 情報、連携、子供、意識、人材育成、人を作る、意識向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティアではできないこと（資金・資料面での支援も必要） ○活動の底辺を広げる体制作り（全島の活動も重要） ○高齢化問題 ○子供たちを活動に巻き込むしくみ ○総合学習との連携（学校との連携による活動展開） ○PTA+地域連携 ⇒ PTCA（地域を巻き込むことが重要） ○島内のリーダーたちが集まれる場も必要 ○情報交換の場づくり（全島的な集まりの場を持つ オープンガーデンのような交流の場やHPの活用等） ○行政と連携してイベントアピール ○全島の緑花をマネジメントする組織やしくみ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ソフト面での支援 ○セミナー ○教育、しくみづくり ○ネットワークづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ○推進会議（短期） ○淡路に自生する植物への意識（長期） 	<ul style="list-style-type: none"> ○継続教育 ○出前講座—セカンドステージへ ○人づくり ○資材市場 ○企業と連携 （例えば、企業のストック活用した「もったいない市」等） ○花苗交換、市民が安価で買えるしくみ ○先生、PTCA、生徒、子供たちに花緑に興味を持たせる—行政が支援 ○持続可能な活動のために地域通貨を活用（緑花の）資金、資材

(3) あわじ花回廊計画 実施事業現地調査のまとめ

あわじ花回廊計画の年次計画において、緑花対象となっている事業の現地調査を行い、緑花の状況と管理面での現状課題等を把握した。調査内容を以下の区分により整理した。

- | |
|---|
| <p>1 道路緑花の状況</p> <p>《国道・県道における緑花状況》</p> <p>○木本類が主体の沿道緑花、○草本類が主体の沿道緑花、○道路沿道の民地等を利用した沿道緑花</p> <p>《拠点緑花等における緑花》</p> <p>《本四連絡道路における緑花状況》</p> <p>○バス停、バスターミナル周辺緑花、○本四道路法面、中央分離帯等緑花</p> <p>2 拠点緑花の状況</p> <p>《花拠点施設等における緑花状況》</p> <p>○常駐管理者等がいる施設、○常駐管理者がいない施設</p> <p>《公共施設緑花における状況》</p> |
|---|

1 道路緑花の状況

<p>道路空間の緑花</p> <p>主な調査対象 ：国道28号（岩屋改良、淡路東浦道路、洲本バイパス、県道</p>	<p>【緑花の状況】</p> <p>○木本類が主体の沿道緑花</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩道植栽帯の沿道緑花として高木植栽と低木植栽が行われている。 ・低木や高木の樹種は、花木が多用されている場合が多い。 <p>【緑花修景・管理面での課題等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・街路樹などに用いられている植栽（木本類）は、一般的に維持管理し易い品種が用いられている。しかし、植栽地の土壌等状況により、雑草が繁茂するケースが多い。 ・沿いの沿道緑花は、適度な剪定が行われ、比較的管理が行き届いている。一方、県道は、一般に雑草の繁茂しているところが多く見られた。 ・歩道部の植栽帯には灌水施設は設けられておらず、日常的には雨水等の自然供給によるものとなっている。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="470 1271 861 1581"> </div> <div data-bbox="877 1271 1284 1581"> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="542 1588 805 1614"> <p>国道28号淡路東浦道路</p> </div> <div data-bbox="965 1588 1204 1614"> <p>県道（淡路市 深草）</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;"> <p>国道28号洲本バイパス</p> </div>
---	---

道路空間の緑花

主な調査対象
：県道洲本南淡線、
広域営農団地農
道等

【緑花の状況】

○ 草本類が主体の沿道緑花

- ・ 歩道の歩車道境界側に連続した植栽帯が設けられており、そこに緑花されている。
- ・ 一年草が主体に植えられているようだが、多年草も部分的に用いられている。
- ・ 一年草が生長し宿根化しているものもみられる。
- ・ 路線を全体的にみると、現状において緑花されている場所が疎らで、雑草が繁茂している部分が多く見られる。



県道洲本南淡線

【緑花修景・管理面での課題等】

- ・ 背丈の低い草本類は、歩車道境界ブロック陰に隠れてしまう状況がみられた。背丈の高いものやボリュームのある花を用いるなど配慮が必要と思われる。
- ・ 植栽帯への緑花は、植栽延長が長く、灌水等の問題があると同時に、常に花でいっぱいにしておく状況が難しいなど、管理上の問題が大きい。
- ・ 灌水装置（自動灌水装置）が完備されている路線（県道洲本南淡線）もあるが、装置の有る無しに係わらず、雑草の繁茂や裸地が目立つ状況にある。



広域営農団地農道（オニオンロード）



県道佐野仁井岩屋線

道路空間の緑花

主な調査対象
： 県道澁
三原線、市道市
榎列線等

【緑花の状況】

○道路沿道の民地等を利用した沿道緑花

- ・道路沿道の民地や空閑地を活用して植栽地が設けられている。
- ・花苗配布による一年草が主体に植えられており、近隣の地元住民や団体の手によって植栽されている。
- ・市道市榎列線沿道では、沿線農地の提供により緑花が行われており、その持ち主により緑花管理が行われている。耕作者の理解度や意識の高さが伺える。
- ・また、幹線道路沿道の民有地法面への積極的緑花も試みられるようになってきた。



県道澁三原線



市道市榎列線



国道28号沿いの民有地法面緑花

【緑花修景・管理面での課題等】

- ・灌水装置等がなく、緑花面積が広いことから、水やりの大変さが伺える。
- ・一年草主体の緑花が多いことから、植え替え時や花期からはずれた場合に、修景面での課題が残る。

道路空間の緑花

主な調査対象：
緑の道しるべ
事業、道の駅
等

【緑花の状況】

○ 道路沿道の民地等を利用した沿道緑花

・ 県道等沿線に設けられた立ち寄り型の公園であり、木本類主体の緑花となっている。一部、多年草等の植栽が見られ、地被植物の緑とのコントラストが花を際立たせていた。(調査時マツバギクが花期を迎えていた)



拠点緑花 (洲本市角川)



拠点緑花 (淡路市平林)

【緑花修景・管理面での課題等】

・ 植栽管理の頻度が少なく、緑地部に雑草が繁茂しているところが多く見られた。
・ 沿岸部に位置する植栽地の中で塩害に遭っているものが見られた(左下、コノテヒバ)。回復の見込みがないものに関しては、公園全体のイメージを損なうことから、伐採等も含めた検討も必要となる。





拠点緑花 (淡路市郡家公園)



拠点緑花 (淡路市平林)

<p>本四連絡道路における緑花</p> <p>主な調査対象： バス停、バスターミナル周辺緑花</p>	<p>【緑花の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一年草主体の緑花、色鮮やかな彩りで飾られており、豊富な花のイメージを印象づけている。 ・限られた空間での立体的な緑花による工夫が図られている。 <p>【緑花修景・管理面での課題等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一年草主体の緑花であることから、常に花を入れ換えるための費用面での課題がある。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>高速舞子バス停</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>北淡ICバス停前</p> </div> </div>
---	---

<p>本四連絡道路における緑花</p> <p>主な調査対象： 本四道路法面、中央分離帯等緑花</p>	<p>【緑花の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常的に立ち入りできない場所での緑花であることから、ワイルドフラワーや木本類中心の植栽となっている。 <p>【緑花修景・管理面での課題等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一年草主体の緑花であることから、常に花を入れ換えるための費用面での課題がある。 ・法面緑花（ワイルドフラワー）について（左下、法面緑花）、年々花の勢いが落ちてきているようである。 ・中央分離帯の緑花について（左下、中央分離帯の緑花）、つた類の植栽が行われているが、成長が悪く、緑花を立体的に見せる効果が得られていない。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>淡路IC付近法面緑花</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>中央分離帯の緑花</p> </div> </div>
---	--

2 拠点緑花の状況

花拠点施設等における緑花状況

主な調査対象：
淡路夢舞台、公園等、北淡震災記念公園、おのころ愛ランド公園、あわじ市総合運動公園、

【緑花の状況】

○ 常駐管理者がいる施設

- ・ 緑花をテーマとした公園では、エントランス周り修景や木本類と草本類など、うまく使い分けられており、修景面及び管理面においても良好な状況が保たれている。



淡路夢舞台（百段苑）



淡路香りの公園



北淡震災記念公園



おのころ愛ランド公園

【緑花修景・管理面での課題等】

- ・ 修景材として瓦等が用いられているが、設置状況がわるく利用者に対して危険なところが見られた。利用者の安全性を十分に配慮した修景整備が必要である。
- ・ シンボルツリーの生育が悪く、施設の印象を悪くしている。施設のエントランスやポイントとなる地点での修景は重点的な管理が必要である。



北淡震災記念公園付近の沿道緑花



北淡震災記念公園

花拠点施設等
における緑花
状

主な調査対象：
ダム直下公園

【緑花の状況】

- 常駐管理者がない施設
- ・ 山中に位置する立地上の問題からか、人気の感じない公園となっている。
- ・ 緑花は木本類の植栽が主体となっている。

【緑花修景・管理面での課題等】

- ・ 植栽地等一定の維持管理が行われているが、維持管理の頻度が少なく全体的に荒れた印象を受ける。園地部の維持管理費を低減するための方法等検討が必要である。



成相ダム



牛内ダム



牛内ダム



大日ダム

公共施設緑花
における状況

主な調査対象：
洲本市図書館、
洲本市健康福祉館園

【緑花の状況】

- ・ 建物周りの景木として高木が用いられており現在は木本類等の植栽が主体であるが、施設建設当初は、花木類や草本類（多年草等）の植栽が行われており、補植や新植されないまま現在に至っている。



洲本市図書館



洲本市健康福祉館

【緑花修景・管理面での課題等】

- ・ 地被植栽や低木及び高木植栽等の組み合わせにより、施設外構部の緑花ボリュームは一定確保できている。
- ・ 多年草が植栽されていても、あまり手をかけずに放置していると花壇も荒れてしまう。修景の中心となる部分への集中的な維持管理などにより、効果的な緑花の見せ方へとつながる。



洲本市図書館

(4) 花回廊計画に係わる事業主体等へのヒアリング

1 ヒアリングの目的

花回廊計画に位置づけられている事業について、施設管理者や事業を運営している緑花関連機関に、事業の実施状況や課題、今後の展望等をヒアリングした。

緑花関連機関にヒアリングすることにより、今後、淡路でどのような緑花事業を推進し、事業の展開方向性のヒントを得ることを目的とした。

2 ヒアリング先

ヒアリング先	備 考
○淡路島観光連盟	情報発信等
○県立淡路香りの公園	公園維持管理、運営
○淡路花博記念事業協会	施設の維持管理、イベント等事業運営
○兵庫国道事務所	道路の維持管理
○国営明石海峡公園	公園維持管理、運営

(※ヒアリング順)

3 結果概要

① 緑花関連機関が行っている主な事業内容

- ・ 観光情報の提供、花へんろ等の事業への参加
- ・ 情報発信のためのホームページの設立
- ・ ニュースレター等の発行、野外コンサート、写生大会等の開催
- ・ 地域に根ざした公園として、憩いの場の提供
- ・ 特別養護老人ホームや学校等への利用促進の働きかけ
- ・ 「花の名所」事業、花祭り、園芸シンポジウム等「花とみどり」を理念にした活動
- ・ 公園の維持管理、沿道沿いの植栽管理
- ・ 職員からの提案の募集 など

② 緑花グループ・住民等との関わり

- ・ 地元の緑花グループと協働し公園管理（有償ボランティア）でお願いしている。
- ・ ボランティアサポートプログラム等の実施
- ・ 公園海峡クラブ等の設立
- ・ 公園管理、運営について女性アドバイザーの設置

③ 抱えている課題と今後の展望

- ・ 開花時期、植え替え時期等の問題を解決するためにも、花だけでなく花木を多く植栽していく。淡路島における花木のイメージも育てたい。

- ・地域住民や様々な立場にいる人を巻き込んでいくことで、多種多様なイベントを立ち上げていきたい。
- ・情報交換の場必要であると考え。緑花グループだけでなく、自治会との連携をうまく行っていくことが必要なのではないか。
- ・緑花関連機関や緑花団体等との情報交換の場に参加することで情報の共有を図りたい。
- ・利用促進のためにもイベントを行いたい、イベント運営費が市と折半であることから運営が非常に困難である。
- ・各地域様々なイベントが行われているので連携していきたい。現在は横のつながりは全くない。
- ・観光に関する情報ターミナル的役割を果たしたい。そのためにも情報収集の仕組みづくりを行いたい。
- ・情報発信面や施設の管理運営面で共通して、地元の緑花グループや地元住民とのつながりを模索している。
- ・地元や緑花グループとの協働や情報交流等により、情報発信や維持管理活動の充実が図られようとしている。
- ・花博記念事業協会や県立淡路景観園芸学校とのタイアップ事業や交流事業等が求められている。

④ ヒアリングまとめ

- ・各団体とも施設整備はある程度終了し、今後管理・運営についての課題が出てきている。
- ・特に、地元の緑花グループ等と協力していきたいとの意向を持っているが、現状では緑花グループとの連携があまり進んでおらず、情報を得るためにも交流の場を求めている。また、園芸療法など、緑花から派生する部分を積極的に取り組むことで、地元との連携を図っていこうとしている。
- ・管理面からは、花木の使用や淡路に自生する植物の積極的な使用を考えている。

(5) 「花回廊計画」の成果と課題の抽出

ワークショップ、ヒアリング、アンケート、現地調査等をふまえ、花回廊計画の成果と課題の抽出をハード面とソフト面から行いました。

1 花回廊計画の検証（ハード面）

①道路緑花（主に行政・緑花グループが取り組む内容）	
<p>海・陸の玄関口の緑花</p> <p>【淡路島来訪者への第一印象の演出の緑花】</p>	<p>【取り組みの現状】</p> <p>〈海の玄関口〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・港湾等及び周辺地域を対象とした環境・景観整備を含めた総合的緑花整備を展開（岩屋港、大塚フェリーターミナル、津名港、洲本港、喜島漁港、淡路交流の翼港） ・洲本港（プランター19基、100㎡）、津名港（970㎡）、岩屋港（70㎡）、交流の翼港（プランター31基、580㎡）等 <p>〈陸の玄関口〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高速道路IC出入口の修景緑花や県立淡路島公園ハイウェイオアシスゾーンの整備（津名一宮、洲本、西淡三原、淡路島南、淡路、東淡、北淡） ・神戸淡路鳴門自動車道SA・IC出入口付近等（29,750㎡）等 <p>【成果・評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通機関のターミナルや幹線道路沿道は、来島者が最初に目にする玄関口であることから、花壇や植栽帯を整備することにより、花いっぱい美しいまちを印象づけていた。 ・岩屋港等では、地元小学校やPTAなどによる花飾りが行われており、地域の関わりも増えつつある。 <p>【課題・今後に向けて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緑花に一年草が用いられることが多く、灌水や入れ替え等、維持管理の頻度が高くなる。 ・緑花の継続的な取り組みが必要となる。
<p>道路空間・沿道空間の緑花</p> <p>【道路空間・沿道空間での新たな花の景観の創出】</p>	<p>【取り組みの現状】</p> <p>〈新規改良区間の緑花〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国道28号（岩屋改良、淡路東湾道路、洲本バイパス等） ・東浦地区（延長=2.7km、28,400㎡） ・洲本バイパス（延長=3.2km、5,100㎡）等 <p>・県道</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野島～岩屋（延長=5.7km） ・五色三原線（延長=1.6km）等 <p>〈緑の道しるべ事業、道の駅事業の推進〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存道路修景緑花事業の拡大 <p>〈道路空間の緑花〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緑花方法の改善による緑花拡大 <p>【成果・評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路や施設周辺を含めた沿道景観に花を添え、効果的な緑花の拡大を図ることができた。 ・全県花いっぱいモデル事業、国のボランティアサポートプログラムなどを利用し、地域の緑花グループが道路緑花に取り組んでいるケースがあり、全体の中で箇所数は少ないが、一点突破的にまちの景色を彩り良くしている。

	<p>【課題・今後に向けて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花壇の規模や一年草を中心とした緑花の質、人目につきにくい道路までも植栽しているなどにより管理面での負担が大きい状況にある。 ・緑花に一年草が用いられた場合、維持管理の頻度が高くなるとともに、緑花規模が大きいことから、費用面での負担が大きくなる。 ・管理の頻度が低い場所は、雑草が繁茂していることが多く管理の強化が必要となる。 ・花だけでなく緑も取り入れる等、多様な緑花の工夫が必要となる。
② 拠点緑花（主に緑花関連機関が取り組む内容）	
<p>全島レベルの花拠点施設の緑花</p> <p>【花の島淡路のイメージアップや観光資源づくりに貢献する施設緑花】</p>	<p>【取り組みの現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の特徴、規模を活かしながら特徴ある個性的な緑花（国営明石海峡公園、淡路夢舞台、県立淡路島公園、あわじ花さじき、県立淡路景観園芸学校、北淡震災記念公園、県立淡路香りの公園、おのころ愛ランド公園等） 淡路夢舞台（12.3ha、緑花面積8ha）県立淡路島公園（148.8ha）あわじ花さじき（16ha）、県立淡路景観園芸学校（13ha）国営明石海峡公園・淡路地区（96.1ha）等 ・主要花拠点施設のアプローチ道路やそのゲート空間の緑花 <p>【成果・評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花さじきや百段苑などの複数の大規模な花拠点施設の整備により花の観光資源が増加し、淡路の花の島のイメージの向上とともに、先導的な緑花修景施設として地域の緑花意識を高めてきた。 ・あわじ花へんろ事業等の実施により、花拠点施設の整備効果をさらに高めた。 <p>【課題・今後に向けて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緑花の質については、原色系の花を用いた花壇が多く、さらに大規模であることから維持管理費等管理面での負担が大きい。淡路に自生する植物や多年草等を多用するなど、継続的な緑花や資材等のリサイクル利用への取り組みが必要となる。 ・花の島のイメージが風化しないよう、継続的な取り組みと積極的な情報発信機能が必要。
<p>花風景スポット施設の緑花</p> <p>【補完的な修景緑花ポイント】</p>	<p>【取り組みの現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元の花の名所としての緑花、民間活動団体の利用拠点としての緑花、歓迎の意を表現する（緑花等花そのものを目的としないホテルや美術館、海水浴場等の観光・レジャー施設・文化施設等、花の名所等身近な公園、緑花グループの活動拠点） <p>【成果・評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花そのものを目的としない観光施設でも、花回廊計画に基づき、施設敷地内の花壇づくりに力を入れて花のイメージアップに貢献してきた。 ・地元の公園や神社仏閣などは、桜や梅、あじさいなどの名所であり、とりたてて花壇を整備しているわけではないが、既存の樹木等の管理を継続することで、地域では親しまれている存在になっている。 ・緑花グループの利用拠点としても活用されている花壇がある。 <p>【課題・今後に向けて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緑花の量的には小さいことから単体では淡路全体のイメージアップにはつながらないが、「花へんろ」などソフト事業とともに打ち出すことで緑花の効果を高めている。
<p>公共施設の緑花</p>	<p>【取り組みの現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティのシンボル施設となる緑花の推進（庁舎、文化会館、公民館、学校、病院施設等への緑花） 旧緑町役場前花壇（200㎡） 洲本図書館（2000㎡） など

	<p>【成果・評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花回廊計画を意識しながら、施設内に積極的に花壇を設置するなど緑花が進められ、地域のコミュニティシンボルとなっている。 <p>【課題・今後に向けて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一部の緑花は、維持管理が十分に行き届いておらず管理がなされないまま荒れた花壇も見られる。 ・民間の緑花をリードするデザイン性の高い緑花が必要となる。
③まちかど緑花（主に緑花グループが取り組む内容）	
まちかど空間の緑花 拡大・強化	<p>【取り組みの現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちかど緑花のウィークポイントとなっている学校等施設、事業所、休耕田やため池等の緑花の強化（空き地、耕作地、畦畔、民間戸建・集合住宅、企業用地等） <p>【成果・評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政による緑花グループへの活動支援により、緑花領域の拡大が図られた。 ・休耕田を活用した景観植物の植栽、企業用地での花壇づくりなどは活発に進んでいる。 ・北部地域の農地の活用が課題になっている中で、景観植物を植栽して観光客を呼んだり、自然産業特区（市民農園、企業参入）などが進みつつある。 ・民間戸建てや集合住宅では、地域の花の名所づくりとして、オープンガーデンが開催され、緑花グループや地域住民、来訪者との交流が進んでいる。 ・学校や事業所、休耕田等に対して緑花を促進し、民間緑花団体への活動支援により、緑花領域の拡大が図られた。 <p>【課題・今後に向けて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人手や資金不足等により活動の継続が困難な状況にある。 ・緑花グループの規模や地域に差異はあるが、緑花材購入や活動運営費等の費用負担が大きくなっている。 ・オープンガーデンの継続的な実施と積極的な情報発信等により、取り組みの拡大や情報交流の場として、更なる展開が望まれる。
④周遊ルート（主に行政が取り組む内容）	
周遊ルート	<p>【取り組みの現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路緑花、拠点緑花、まちかど緑花の各計画の相互の連携と緑花の連続性を確保し、景観資源や施設を効率的に巡ることができる周遊ルートの設定（花の周遊ルート（基幹コース、補充コース）） <p>【成果・評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路緑花、拠点緑花、まちかど緑花の相互の連携と景観資源や施設を効率的に巡ることができる周遊ルートの設定に基づき、ルート上の沿道緑花が進められた。 <p>【課題・今後に向けて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報発信の薄さからルートの認知度が低い状況にある。ルートの積極的な情報発信が必要となる。

2 花回廊計画の検証（ソフト面）

①支援助成の仕組み	
・支援助成制度の充実強化	<p>【取り組みの現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緑花資材の配布 ・淡路緑花銀行 ・まちづくりワークショップ等

	<p>【成果・評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政による積極的な緑花資材等配布により、花壇等の量は増加している。 ・まちづくりプランについては、各学校区でまちについてどのような問題があるのかを発見する機会となった。 ・「さわやかみどり創造プラン」の取組みの中で、「地域コミュニティによる緑の保全・創出システム事業」を実施。その中で中学校単位で緑花グループ等の地域住民によるワークショップを開催した。 ・緑花資材の配布については、行政からの配布だけでなく、地域の中核的な団体が独自に花苗を育苗し配布（有償・無償）する、あるいは地元企業による肥料の配布などの活動が実施されている。 <p>【課題・今後に向けて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緑花資材配布の後、種の収集まで進まないなど緑花資材を循環させるという目的には至っていない。 ・カルテに基づき計画を策定したが、協力者が少なく、実動には至っていない。 ・行政からの緑花資材の提供は継続されているが、今後は減少傾向にあることから、自立的取り組みに向けての体制づくりが必要となる。 ・「わがまちマップ」及び「緑のカルテ」を作成したが、具体的な行動計画までは策定できていない。
②啓発普及	
<ul style="list-style-type: none"> ・計画内容や助成仕組み等の周知 ・花づくり仲間の交流促進、情報提供 	<p>【取り組みの現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・淡路緑花推進交流会 ・パンフレット等の配布 ・県民フォーラムの開催 ・コミュニケーション誌の発行 <p>【成果・評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・淡路緑花推進交流会は定期的開催されており、実質的には花壇コンテストになっている。また、その場を通じて情報の交換などが行われている。 ・県民フォーラムは毎年開催してきており、事業紹介や緑花グループの活動報告等の情報発信が行われた。 ・パンフレット等の配布、コミュニケーション誌の発行については「花とみどり」などが作成されている。 <p>【課題・今後に向けて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンテストやセミナー参加者の固定化、参加者の減少傾向にある。参加者のニーズの把握やプログラム内容を見直す等、継続的な開催が望まれる。 ・緑花グループ同士の積極的な交流には到っていない。参加者は固定、減少している。
③人づくり	
<ul style="list-style-type: none"> ・緑花意欲、緑花技術の向上 	<p>【取り組みの現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花づくり人材育成講習会の開催 ・緑花コンテストの充実 ・緑花マニュアルの作成講習会の見直し ・モデル花壇、モデル庭園の設置 <p>【成果・評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講習会は年間に十数回開催し、緑花技術の向上に一役買っている。 ・コンテストは県および緑花関連機関・NPOが規模に応じて開催しており、緑花活動の動機向上につながってはいるが、参加者の固定化、減少がみられる。 ・マニュアルは配布されたが、緑花グループ全体には広まっていない。 ・モデル花壇は市町ごとに取組まれ、続いている所もあり一定の効果を上げているといえる。

	<p>【課題・今後に向けて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島内を対象としているためコンテストやセミナー参加者の固定化や減少傾向にある。参加者のニーズの把握やプログラム内容を見直す等、継続的な開催が望まれる。 ・緑花マニュアルは配布されているが内容が難しいこと、部数が足りないなどにより広く活動団体にまで行き渡っていない。今後、より簡易なマニュアル、説明会（講習会）などの取り組みが望まれる。
--	---

④情報発信・PR	
<ul style="list-style-type: none"> ・観光、地域振興の促進 	<p>【取り組みの現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジャパソロー2000への参加発表 ・花の名所選定 ・継続的なイベント創出 <p>【成果・評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジャパソローに緑花グループが発表、展示を行った。その後、観光、地域振興につなげるためのイベントが開催され、花の島としてのイメージアップに貢献した。 ・観光連盟などによる全国向けの情報紙への掲載、ホームページの開設など、全国へ「花の島淡路」のイメージ定着が図られた。しかし、緑花グループからの情報の収集や更新方法に工夫の余地がある。 ・くこうみツurisム特区として観光産業の活性化に向けて取り組みが行われている。 <p>【課題・今後に向けて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、さらに発信していくための活動者からの情報を収集するしくみが必要である。 ・情報発信のみにとどまっており、緑花グループ間相互の交流に発展させるための取り組みや交流のための場づくりが必要となる。 ・単発的なイベント開催にとどまらず、持続的な緑花活動に繋げていくためのイベント等、継続的な開催が望まれる。
⑤推進体制組織	
<ul style="list-style-type: none"> ・計画の進行管理 ・関連事業との連携 	<p>【取り組みの現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緑花グループ拡大 ・市町単位の緑花協会設立 ・花回廊構想推進組織の設置 ・快適マップ運動の展開 <p>【成果・評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花回廊当時と比較し、緑花グループの活動は盛んになっている。 ・各町単位の中間支援を担う組織が設立する等、支援のための体制が整ってきたが、市町合併により今後の組織のあり方が問題となっている。 ・花回廊構想推進組織として協議会が設置され、毎年1回開催され報告が行われている。 <p>【課題・今後に向けて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緑花グループの継続した取り組みが難しい状態になってきている。 ・市町合併による組織の存続が問題となっており、今後の活動展開や地域における支援体制づくりが課題となっている。 ・緑花グループの協議会への参加がなく、島内やグループ間での情報交換までは至っていない

参考4 県の花緑に関する施策・事業（平成17年度）

事業名

参画と協働による美しい県土づくり

1 県民の花づくり・緑化活動の推進

担当

(1) 道路沿線での活動

○全権花いっぱいモデル助成事業	県土整備部 都市政策課
○緑化資材の提供	各県民局 まちづくり課
○緑化用苗木の配布	各県民局 まちづくり課
○県民植樹促進助成事業	各県民局 まちづくり課
○花のあるまちづくり事業	各県民局 まちづくり課
○空地緑化支援事業	各県民局 まちづくり課
○道の樹広場整備事業	県土整備部 道路建設課 街路樹課
○道路予定地緑化事業	県土整備部 街路樹課
○兵庫県版アドプト・プログラム	県土整備部 技術企画担当課

(2) 河川での活動

○全県花いっぱいモデル事業助成事業	県土整備部 都市政策課
○緑化資材提供	各県民局 まちづくり課
○緑化用苗木の配布	各県民局 まちづくり課
○県民植樹促進助成事業	各県民局 まちづくり課
○空地緑化支援事業	各県民局 まちづくり課
○まちの顔の川づくり	県土整備部 河川計画課
○自然再生事業	県土整備部 河川計画課
○兵庫県版アドプト・プログラム	県土整備部 技術企画担当課

(3) 海岸での活動

○全県花いっぱいモデル助成事業	県土整備部 都市政策課
○緑化資材の提供	各県民局 まちづくり課
○緑化用苗木の配布	各県民局 まちづくり課
○県民植樹促進助成事業	各県民局 まちづくり課
○空地緑化支援事業	各県民局 まちづくり課
○兵庫県版アドプト・プログラム	県土整備部 技術企画担当課

(4) 空地での活動

○全県花いっぱいモデル助成事業	県土整備部 都市政策課
○緑化資材の提供	各県民局 まちづくり課
○緑化用苗木の配布	各県民局 まちづくり課
○県民植樹促進助成事業	各県民局 まちづくり課
○被災地空地の緑化推進助成事業	県土整備部 都市政策課
○企業庁所有地の活用による修景	企業庁 総務課

(5) 住宅・事業所等での活動

○全県花いっぱいモデル助成事業	県土整備部 都市政策課
○緑化資材の提供	各県民局 まちづくり課
○緑化用苗木の配布	各県民局 まちづくり課
○屋上緑化等推進事業	県土整備部 都市政策課

○企業等イメージアップ植樹支援事業	各県民局 まちづくり課
○外溝緑化助成事業	県土整備部 景観形成室
○花壇等設置助成事業	(財)兵庫県園芸・公園協会 兵庫県立フラワーセンター 緑花課
○のじぎくの花いっぱい家庭づくり推進事業	北播磨県民局 社農林振興事務所 農業振興課
(6) 水田での活動	
○全県花いっぱいモデル助成事業	県土整備部 都市政策課
○緑化資材の提供	各県民局 まちづくり課
○ふるさと田園景観創出事業	農林水産部 農業経営担当課
(7) 森林での活動	
○市民森林推進事業	農林水産部 豊かな森づくり室
○上山高原エコミュージアムの推進	健康生活部 自然環境保全課
○貴重な自然生態系保全・再生活動支援事業	健康生活部 自然環境保全課
(8) 県下それぞれの地域での活動	
○ひょうごグリーンネットワーク事業《被災地》	県土整備部 都市政策課
○「尼崎21世紀の森」の推進《尼崎》	県土整備部 21世紀の森担当課
○オープンガーデン開催支援事業《阪神北》	阪神北県民局 宝塚農林振興事務所 農業振興課
○「あわじ総合緑化プラン」の推進《淡路》	淡路県民局 県土整備部 まちづくり課
○あわじ花へんろ事業《淡路》	あわじ花へんろ推進協議会事務局
○花木による花の名所づくり事業《淡路》	淡路花博記念事業協会 業務部 記念事業推進課

2 学習の場の提供・イベントの開催

(1) 花と緑に関する一般的な学習の場の提供

○森林ボランティア養成事業	農林水産部 豊かな森づくり室
○花と緑の教室の開催	(財)兵庫県園芸・公園協会 兵庫県立フラワーセンター 緑花課
○「花家族の会」「花と緑の協会」育成事業	(財)兵庫県園芸・公園協会 兵庫県立フラワーセンター 緑花課
○有馬富士公園「夢プログラム」、一庫公園「ひとくらクラブ」等の推進	(財)兵庫県園芸・公園協会 ・有馬富士公園管理事務所 ・一庫公園管理事務所
○海外派遣・出展支援等事業	淡路花博記念事業協会 総務部 企画調整課
○人と自然の博物館におけるセミナー開催	県立人と自然の博物館 生涯学習事業室

(2) 専門的な学習の場の提供

○里山学習体験の森推進事業	農林水産部 豊かな森づくり室
○森のインストラクター養成事業	農林水産部 林課 林業専門技術員
○安全リーダー養成事業	農林水産部 豊かな森づくり室
○住民組織育成事業	各県民局 まちづくり課
○花・緑団体レベルアップ支援事業	県土整備部 都市政策課
○全県花いっぱい運動推進員の設置	各県民局 まちづくり課
○全権花いっぱい運動地域ワークショップの開催	県土整備部 都市政策課
○「景観園芸」の専門家の養成及び花と緑のまちづくり講座の開催	県立淡路景観園芸学校
○花と緑の指導者研修会の開催	(財)兵庫県園芸・公園協会 兵庫県立フラワーセンター 緑花課
○全県の緑花グループの交流支援	淡路花博記念事業協会 業務部 記念事業推進課

(3) 花・緑の専門家の派遣

○緑のハトロール隊の設置	県土整備部 都市政策課
○花の講習会講師派遣事業	(財)兵庫県園芸・公園協会 兵庫県立フラワーセンター 緑花課
○ひょうごガーデンマイスター認定事業	(社)兵庫みどり公社 花と緑のまちづくり研究所

(4) イベント等の開催

○ひょうご花と緑のコンクールの開催	県土整備部 公園緑地課
○緑化セミナーの開催	県土整備部 都市政策課
○ひょうごフローラフェスタの開催	県土整備部 公園緑地課
○ひょうご森の祭典の開催	農林水産部 豊かな森づくり室
○地域参加の森づくり事業	農林水産部 豊かな森づくり室

○花メッセひょうごの開催	農林水産部 農産園芸課
○ジャパンフラワーフェスティバル出展事業	農林水産部 農産園芸課
○あわじ花と緑のコンクールの開催	NPOあわじ緑花協会
○国際景観園芸フォーラムの開催	県立淡路景観園芸学校
○緑化イベントの開催	(財)兵庫県園芸・公園協会 総務部 総務企画課
○まちなみガーデンショーの開催	(社)兵庫みどり公社 花と緑のまちづくり研究所
○淡路花博記念事業の推進	(財)淡路花博記念事業協会 業務部 記念事業推進課
○奇跡の星の博物館 企画展の開催	奇跡の星の植物館 淡路夢舞台温室 温室管理課

(5) 相談・指導の実施

○花と緑の相談所等の運営	(財)兵庫園芸・公園協会
--------------	--------------

3 花と緑の県民運動を支える景観園芸の振興

(1) 県民運動を支える体制の充実

○花き消費拡大推進対策事業	農林水産部 農産園芸課
○花き生産の技術・経営試験研究	・農林水産部 総合農政担当課 ・兵庫県立農林水産技術総合センター農業技術センター園芸部
○花き生産の技術・経営普及	農林水産部 普及教育課

(2) 県民生活向上に直結した景観園芸産業の育成

○ひょうご花のメロディー構想推進強化事業	農林水産部 農産園芸課
○あわじ花さじき構想推進事業	農林水産部 農産園芸課

(3) 産業交流促進による景観園芸産業の活性化

○ガーデンビレッジ（仮称）構想の推進	農林水産部 農産園芸課
○景観園芸産業の振興	農林水産部 農産園芸課
○「植木と花の郷」づくり推進事業	阪神北県民局 宝塚農林振興事務所 農業振興課

4 事業として県が進める美しい県土づくり

(1) 道路・河川・海岸の緑化

○道路緑化推進事業	県土整備部 道路保全課
○多自然型川づくりの推進	県土整備部 河川計画課
○港湾環境整備事業	県土整備部 港湾課
○海岸環境整備事業	県土整備部 港湾課
○オンリー1「ふるさとの顔」づくり事業	県土整備部 技術企画担当課

(2) 都市公園・森林等の整備

○県立都市公園の整備	県土整備部 公園緑地課
○六甲山系グリーンベルト整備事業	県土整備部 砂防課
○里山林再生事業	農林水産部 豊かな森づくり室

5 総合的推進体制の整備

○花と緑の総合推進本部の設置	県土整備部 都市政策課
----------------	-------------

参考5 用語説明

アドプト制度

団体・企業等と行政（公共施設管理者）が合意書を取り交わし、相互に役割を確認した上で、団体・企業等が道路や河川等の一定区画の清掃活動や植栽の手入れなどを行う制度

インターネット

パーソナルコンピューターなどを通じて接続する情報通信網のネットワーク。

エコマネー

環境、福祉、コミュニティ、文化等の地域活動を評価する21世紀の貨幣として提唱されているもの。経済循環を地域内で完結させることによる地域内の物質循環の形成等が期待されている。限られた地域や仲間の中で、値段をつけづらい手助けや環境、福祉、教育、文化などに関するやりとりをしたときのお礼として使われる。

NPO (Non-Profit-Organization)

法人格をもった、公共サービスをしている民間非営利組織のことで、医療・福祉や環境保全、災害復興、地域興しなど様々な分野で活動する団体が含まれる。非営利の基本的な考え方では、収益を上げてよいが個人に収益を分配してはならないとされている。

園芸療法

土をつくり、種をまき育て、収穫し、食べ、保存する一連の園芸活動の中には、人間の暮らしに必要な多くの生活要素と感情

の表現（うれしい、きれい、懐かしい、悲しい、静まる、おいしい、よい香り、いい手ざわり、といった五感に訴えるもの）を多く含んでいる。その作用を高齢者や障害者、社会的に不利な立場にある人々の心や体のリハビリ、社会復帰、生きる力の回復などに役立てる療法。

オープンガーデン

個人の庭や生け垣などを公開することで、結果として地域のまちなみ景観をよくしたり、地域の人との交流に役立てようとするもの。もともとはイギリスで始まった活動で、季節や日時を決めて個人の庭に旅行者などを迎え入れて入場料や喫茶代金をチャリティーに役立てていた。

帰化種

本来の分布地域から人類の手によって意図的または意図せずに他の地域に運ばれ、後にそこで人類の手を借りずに個体群を維持するようになった生物種。時に、淡路に自生する植物を駆逐して雑草・害虫獣になり問題を起こすことがある。

コミュニティ

一定地域に居住し、共属感情を持つ人々の集団。地域社会。共同体。共同生活体。

コミュニティビジネス

地域住民が、労働の評価を得ながら地域に役立つ事業に取り組み、事業を継続することにより、働く場づくりや生き甲斐づく

り、安心して暮らせるコミュニティづくりなどにつなげることを主な目的とするもの。

里山

人里周辺の低地や丘陵地。燃料・肥料・食料・生活資材等の調達など農業を営むのに必要な樹林で農地に続く森林、たやすく利用できる森林。植生からみると、人里近くの雑木林、アカマツ林などの各種二次林（後述）、小規模なスギやヒノキの植林、竹林などがある。

CI（シー・アイ）

もとは corporate identity の略で、企業イメージ等を大衆に知らせることだが、地域づくりでは、まちのイメージづくりの意として一般的に用いられている。

市民農園

自然とのふれあいを求める市民に対し、その機会等を提供するために、レクリエーション活動として蔬菜類等の栽培を行えるよう、農地を一定区画に区分し、一定期間貸づける農園のこと。最近では、地方公共団体や農協等が市街地内に残された農地の活用を図りつつ、市民のニーズに応えるため、農地所有者から農地を借り上げる措置をするケースが多くなっている。

GIS（ジー・アイ・エス）

地理情報システム（Geographic Information Systems）の略称で、文字や数字、画像などを地図と結びつけて、コンピュータ上に再現し、位置や場所からさまざまな情報を統合したり、分析したり、分かりやすく地図表現したりすることができる仕組みで

あり、行政や市民生活、ビジネスの現場でも幅広く利用することが可能である。

自生する植物

本来、その地域に自然に生える動植物の種類。

種（しゅ）

生物分類の基本単位、生物群集構成の基本単位。個体が遺伝的に形態的行動的に相互に不連続な集団にはっきりと分けられたもので、自由に交配し健全な子孫をつくる生物の集団であるが、異なる種間では生殖できない。

生態系

地域にすむ全ての生物とそれらを取り囲む環境をまとめて、そこでの食物連鎖等に伴う様々な物質（炭素・窒素等の栄養物質等）やエネルギー（太陽エネルギーがもとになっている）の流れによって複雑に結ばれた体系としてとらえたもの。

生物多様性

生態系、種、遺伝子の3つの多様性を包含したもので、様々な生物が相互の関係を保ちながら、本来の生息環境の中で繁殖を続けている状態。

地球温暖化

地球は温室効果ガスにより地表の温度が生存に適した程度に保たれている。近年、産業活動の増加などにより温室効果ガスの大気中濃度が着実に増加しており、必要以上に地表温度の上昇、降雨量の変化、風向・風速の変化などの気候変動が生じ、その結果、干ばつ、

洪水、海水面の上昇による水没などの被害が懸念されている。

バイオマス

本来、生物学上の用語で「生物量」をさす。1970年代を機に生態学的な意味合いをこえて、生物起源の物質からなる食料、資材、あるいはエネルギー（燃料）など再生可能な植物由来の有機資源を意味する言葉としてとらえられるようになっていく。木質系燃料となるペレットなどが代表的なバイオマスエネルギーである。

バリアフリー

障害者や高齢者などが生活するうえで障壁（バリア）となる部分を取り除くこと。具体的には室内の床の段差をなくしたり、廊下や階段に十分な幅を持たせたり、手すりを設置すること。

BDF

バイオディーゼル燃料の略で、一般のディーゼル燃料に比べて二酸化炭素の排出が少ないクリーンな燃料。現在、五色町と東浦町で BDF 精製装置稼働しています。

ヒートアイランド現象

都市中心部の都市活動の結果生じる気温上昇現象。気温の等高線を描くと、都市部が巨大な熱の島のように見えることから呼ばれる。自動車や建物から放出される熱やアスファルトなどで地面が覆われているため、放熱が悪いことなどが原因として起こる。

プラットフォーム

もともとの意味は「基盤」という意味だが、まちづくりの分野などでこの言葉を使う時は、「様々な人が交流し、情報を交換し、行動を発生させていく場」を指す。様々な主体が参加し、情報や意見を交換できる場があれば、それをとおして組織間の連携が図れたり、新たな行動組織や活動が生まれることが期待できる。このような効果を生み出す場が「プラットフォーム」である。

メーリングリスト

電子メールを使って、特定のテーマについての情報を幅広い受け手の間で交換するシステム。複数のユーザーを1つのグループとしてメールサーバに登録し、情報を同時配信することにより実現している。

ユニバーサル・デザイン

あらゆる年齢、背格好、能力の人が利用可能なように都市空間やその構成要素の対応可能な範囲をできる限り拡張するデザイン的な試みで、障害者や高齢者、および健常者の区別なく、誰でもが使いやすいように配慮されたデザインのこと。

リサイクル

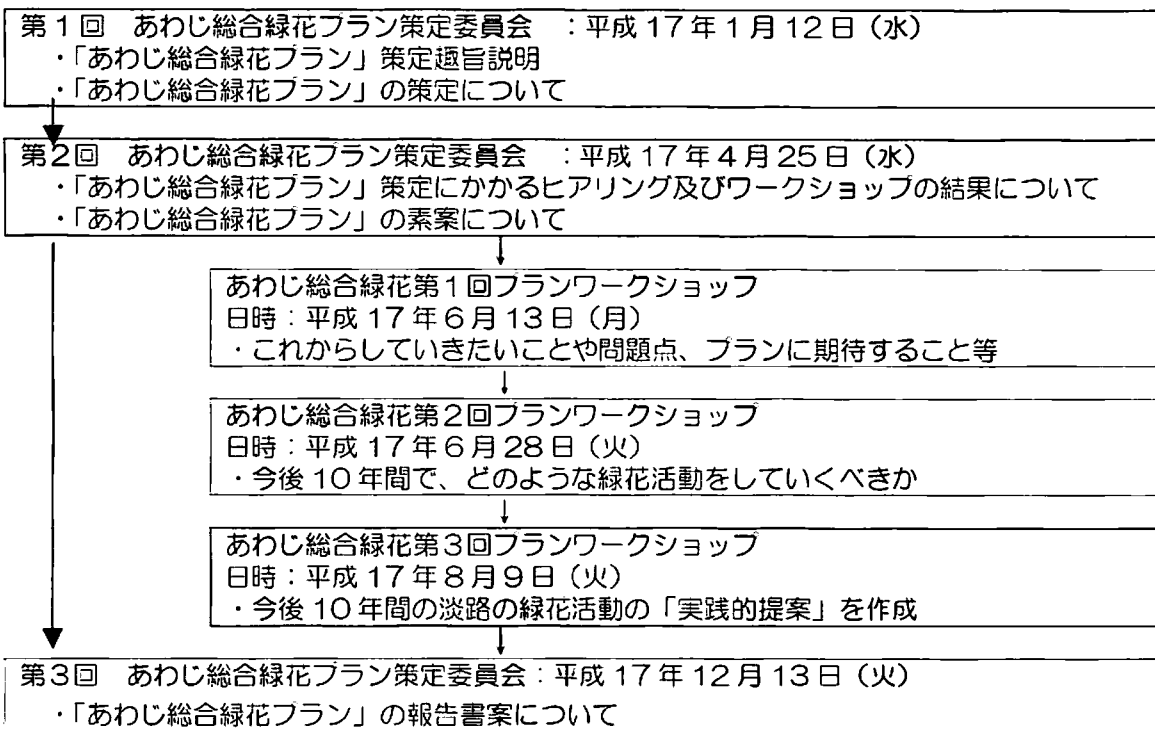
廃棄物の再利用のこと。一般的には、(1) マテリアルリサイクル（物質として原材料等に再生）、(2) ケミカルリサイクル（油などに物質変換をして再利用）、(3) サーマルリサイクル（燃焼して熱として回収）などに分類されている。

ワークショップ

地域にかかわる多様な立場の人々が参加し、コミュニティの諸課題をお互いに協力して解決し、さらに快適なものにしていくために、各種の共同作業を通じて計画づくりなどを進めていく方法。

参考6 策定経過（策定経過、委員名簿等）

■策定経過



■策定委員

氏名	役職
●委員	
石原憲一郎（委員長）	県立淡路景観園芸学校校長
林 まゆみ	兵庫県立大学助教授、県立淡路景観園芸学校主任景観園芸専門員
秀 睦雄	オープンガーデン関係者
上田 通代	花づくり実践者
立田 順三	花づくり実践者（三洋電機洲本園芸クラブ）
川口 佳子	教育関係者（湊幼稚園 園長）
小南 廣之	教育関係者（旧東浦町立学習小学校 元校長）
武田 里美	NPO アルファグリーンネット
野口 利宏	NPO あわじ緑花協会理事長
大島 雅博	財団法人淡路花博記念事業協会専務理事（～H17.3.31）
藤原 信之	〃（H17.4.1～）
●オブザーバー	
吉川健一郎	淡路県民局県民生活部長（～H17.9.30）
青戸 忠明	〃（H17.10.1～）
前田 昌俊	淡路県民局県土整備部長（～H17.3.31）
原田 一二三	〃（H17.4.1～）

■ワークショップ参加者

団体	所 属	氏 名
緑 花 団 体	岩屋公民館花と緑の会	立谷 林也、幹田 勇五郎
	北淡花づくり友の会	金山 忠義、金山 桂子、上田 通代
	一宮花とみどりの協会	杖谷 弘章
	五色町緑花推進協会	政処 真己、広田 好美、北畑 義章
	緑花づくりを楽しむ会	谷口 保、原 一喜、広田 好美 岡田 芙美子
	花づくりネットワーク西淡	菊川 豊、飯田 寛治、奥野 訓男 済藤 静子
	花でまちづくり協会	新阜 幹太
	花づくり人づくり推進会	安田 安義、真野 幸雄
	南淡花づくり交流会	松崎 みよし、安部 幸代、藤本 はなえ
	バーベナあわじ	上田 治子、市原 聖厚、市原 順子
	「内町を美しくしよう」実行委員会	吉岡 國興
	AGN西淡	池尻 八重美、武田 里美
関 係 団 体	財団法人 淡路花博記念事業協会	藤原 信之
		酒井 英明
	NPO あわじ緑花協会	野口 利宏
行 政 機 関	洲本市 企画部企画課	石田 健二、伊達 千昌
	五色町 生活環境課	清水 淳司
	淡路市 企画部企画課	上宮 章寛、岡部 喜之
	淡路市 市民生活部 総務係	伊郷 勇一郎
	南あわじ市 市民生活部生活環境課	木下 賢二
コ-ディネ-タ-	県立淡路景観園芸学校	林 まゆみ
アドバイザー	県立淡路景観園芸学校	石原 憲一郎
アドバイザー	総合緑花プラン策定委員	秀 睦雄
	総合緑花プラン策定委員	立田 順三
	総合緑花プラン策定委員	小南 廣之

※事務局：淡路県民局 県民生活部環境課、県土整備部まちづくり課、PMA'ック（株）地域計画建築研究所

兵庫県淡路県民局

〒656-0021 兵庫県洲本市塩屋2-4-5

TEL. 0799-22-3541